



「大隈重信と佐賀」知られざる大隈 その①

令和3年1月10日（日）、大隈重信侯100回忌を迎えるにあたり、5回にわたって大隈重信侯に関する紹介文を連載します。

早稲田大学を設立した大隈重信は、天保9（1838）年、水ヶ江の会所小路で生まれました。幼名を八太郎と言ひ、幼い頃は親が心配する程ひ弱で泣き虫だったようです。6歳の時に藩校弘道館の内生寮（現在の小学校）に入学し、その頃から少しずつ学問で頭角を表し始めました。ただ、弘道館での葉隠や朱子学一辺倒の教育に疑問を感じ、教育改革の必要性を感じるようになりましした。

そうした中、安政2（1855）年、藩校の南北寮の間に騒動が起こり、八太郎はその首謀者と誤解されて弘道館を退学になってしまいました。すぐに復学を許されたのですが戻らず、以前から興味があった蘭学寮（オランダ語の研究）に入ります。

大隈の眼が海外に向けたのはこの頃だと思われます。

（大隈重信記念館館長

江口 直明）



▲長崎遊学時代の
大隈侯

◎問い合わせ

大隈重信記念館

☎ 23・2891